



おのであ たかお
小野寺隆夫
(爽志会)

- カメムシ被害への抜本的対策を
- 放射能汚染・大豆は大丈夫か

質問 近年農家にとってカメムシ被害は深刻な問題となっている。特に胆沢区においてはその発生率は突出している。昨年岩手県は、全国で唯一カメムシ多発警報が発令された年であったことから、今年はさらに多くのカメムシの発生が予想される。市として、カメムシ被害の現状をどのように捉えているか。また抜本的対策について。さらに、今年に限っては牧草を牛に給与できないことから、牧草地にカメムシ防除の薬剤散布は可能か。

市長 J A岩手江刺管内の発生率からすると、J A岩手ふるさと管内の発生率は10倍にも及んでいる。その内胆沢区の発生率は、被害全体の6割にも及んでいる。対策としては、適期における畦畔雑草の草刈りや地域ごとの一斉防除が有効的と考えており、無人ヘリ等による一斉防除の体制作りにおいては、防除協議会事務局へ申し入れをしていきたい。また、牧草地へのカメムシ防除薬剤の散布については、登録されていないため認められていないが、7月中旬に牧草



カメムシ防除に威力を発揮する無人ヘリ

地の除染作業をすることにより、カメムシの発生を抑制することにもつながると思われる。

質問 「大豆での土壤改良による放射性セシウム吸収低減対策」について、塩化カリの散布等指導があつたが、これは、義務なのか、営農指導のひとつか。

さらに、基準値以上のセシウムが検出された場合の対応は。

市長 農業改良普及センターによると、営農指導という範疇である。基準値以上の値が検出された場合の対応については、現在県においてその方向性を検討している段階である。



なかにし ひでとし
中西秀俊
(創政会)

- 江刺区の診療所の存続は交通弱者・高齢者の願い！
- 望む！公式戦可能な新野球場

質問 シンクタンクから「江刺5診療所は廃院」の提言があつた。しかし、遠隔地に住み恩恵を受けている方々は「感謝し、これからも頼みたい」と強く願っている。一連の行政改革として領域に入ってくるとは感じていた。しかし「患者が待っている。もう少し残してほしい」と言うのが地域の願いであり、施設利用が可能な期間は残すべきと考えるが。

市長 提言は重く受け止める。医療の確保、医療格差の解消などを再確認し拙速には進めない。前提として交通手段の確保がクリアされた上で、利用者、地域の理解を頂き「各診療所の存続・廃止」を判断していきたい。今あるものがなくなることで市民に不安を抱かせてはならない。市内のどこの地域に住んでいても、医療としての受診の際には交通機関を低額、あるいは無料で利用できるような体制をつくる必要がある。

質問 小・中学校の体育館フロアのワックス掛けなどの定期的なメンテナンス予算を確保しては。



Zアリーナ周辺の野球場

教育委員長 メンテナンス状況を把握のうえ、適切な床面の維持に対応していく。

質問 江刺中央運動公園野球場にトイレの増設を。

市長 浄化槽による水洗化は設置場所、工事費から厳しい状況である。利用方法・管理のあり方について、利用団体と相談しながら仮設等を含め設置の方向で協議する。

質問 公式戦が可能な新野球場の建設計画をZアリーナ周辺にする等、市民に希望や夢を与える施策と県施設の誘導も一考すべき。

市長 老朽化している野球場の代替施設、選手育成強化にも期待がもてるが、財政事情を考慮し総合的に土地の活用も併せ考えていく。